

白石町長  
コラム  
Vol.82

# 「不易流行」

くよき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって

「理想を創造する」

## 奥大山自然塾開校

令和5年5月6日、奥大山自然塾が開校しました。会場のエバールランド奥大山には、平井伸治鳥取県知事、舞立昇治参議院議員を始め多くの来賓の皆様においでいただきました。そして、富良野自然塾の塾長である倉本聰先生にもビデオメッセージで激励いただきました。式典の後はプログラムを体験する機会もあり、その様子はテレビ、新聞でも報道されたところ

です。奥大山自然塾を構想してから実現までに約3年を費やしました。この間、鏡ヶ成、エバールランドにおいて富良野自然塾の実演をしていただきました。また、昨年7月には私も含めた関係者で北海道富良野市に行き、倉本聰先生に江府町での奥大山自然塾構想をお話ししました。この構想のきっかけをつくっていた江府町出身の元日本海テレビ局長の古川重樹さ

ん、伯耆町出身で江府

町にもご親戚がある、

富良野自然塾副塾長の林原博光さんには大変お世話になりました。

このお二人の存在がなければ、奥大山自然塾は実現しなかったでしょう。そして、林原さんの厳しい指導についてきた、インストラクターのみなさん。開校式に向けて一丸となって準備をしてくれた奥大山振興室のメンバー。そして、この活動について温かい目で見守ってくださった地元御机集落のみなさんに、改めて感謝申し上げます。



▲林原福塾長と自然塾の看板お披露目

これまでのコラムはこちら!



これまでのコラムはQRコードを読み取ることでご覧いただけます。



新コーナー  
江府町立図書館の本棚  
「こんな本あります！」  
監修：江府町立図書館館長 宇田川 恵理

こんにちは！江府町立図書館の宇田川です。江府町立図書館の本棚にある、ちょっと気になる「こんな本」を、紹介していきたいと思えます！



### 『無人島のふたり 120日以上生きなくちゃ日記』 山本文緒著 (新潮社)

58歳で突然腓臓がんと診断され、余命宣告された作家山本文緒が、病の日々を綴った日記です。毎日の出来事やちょっとした思い出、自分の体調や食べたものなどを淡々と書いていることが、かえって心に刺さります。最後まで「書く」ことをやめなかった作家の凄みと、いずれ誰にでも訪れる死との向き合い方について考えた1冊でした。

町立図書館には、闘病記のコーナーもありますので、ぜひご覧ください。



病気になっても書き続けた作者

宇田川館長

